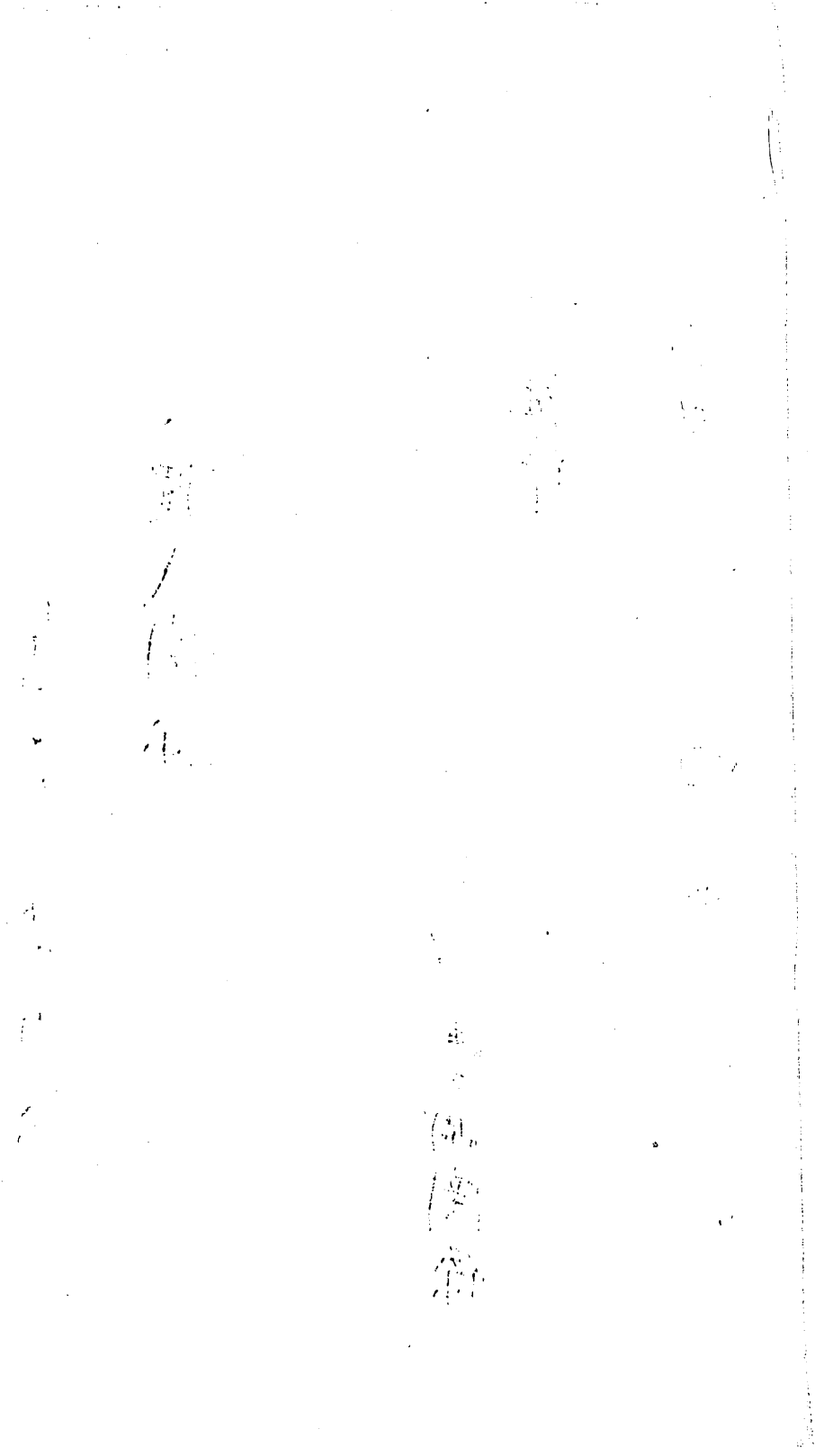




(2) 戦後処理関係



RA<sup>9</sup>-0621

0294

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

文書課長

一復第五九四號

文書保管相成度件照會

昭和廿壹年參月廿日 第一復員省文書課長

外務大臣官房文書課長殿

元奄美守備隊高田利貞少將ノ別冊「奄美群島ノ戦後處理ニ就テ」(昭  
二一、二、一八)ノ記述中ニアル左記文書(原文)ヲ同島歸屬等  
ニ關スル重要資料トシテ貴省ニ於テ保管相成度照會ス

左記

- 一、一九四五年九月五日附「フランク」少將ヨリ高田少將宛返信
- 二、「エドワード」大佐訂正署名ノ電文
- 三、「コリンズ」少佐及「マヌカート」少尉ノ感謝文

計 三部

陸軍

記帳齊

21. 8. 22

0003

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

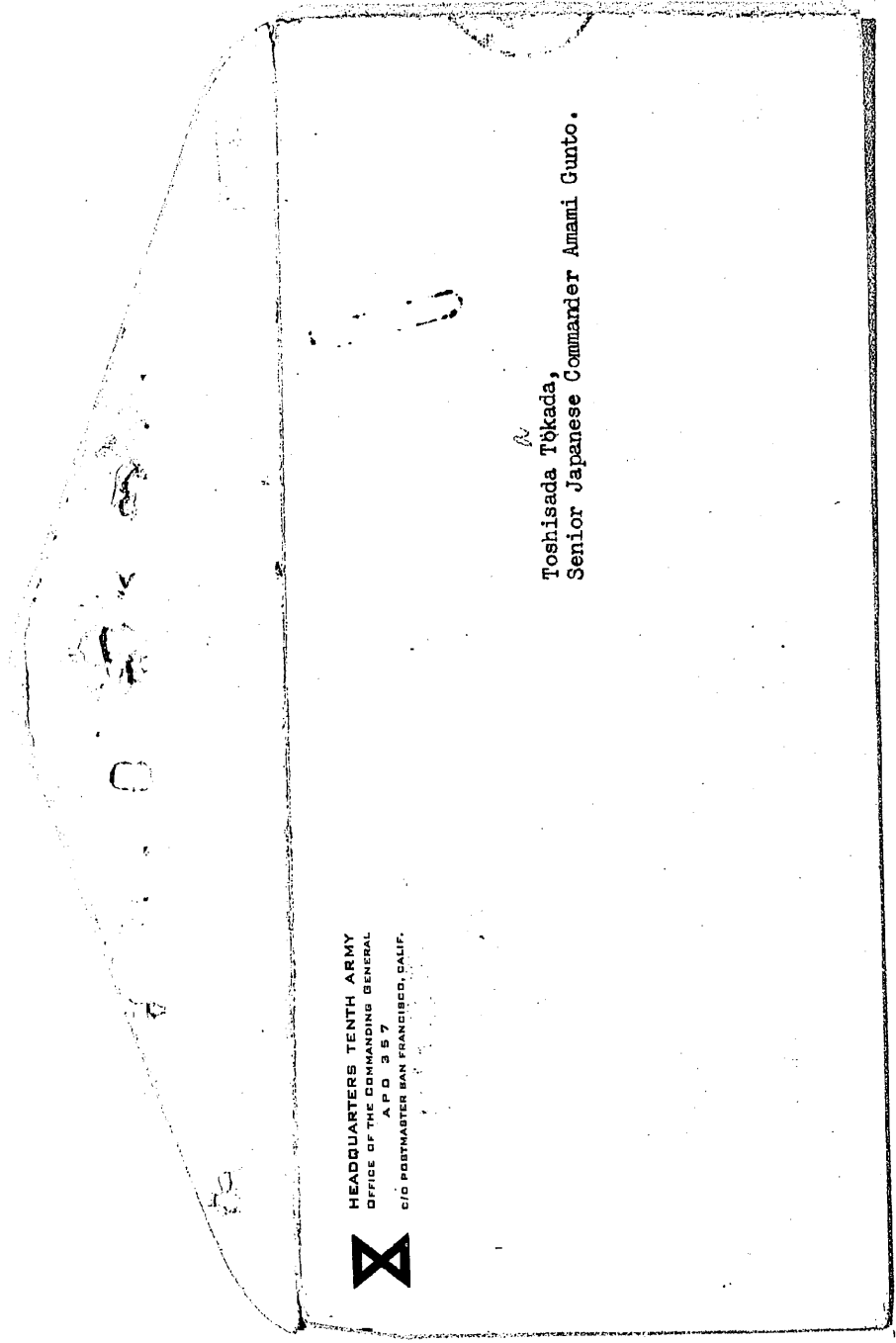
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0621

0295



HEADQUARTERS, TENTH ARMY  
OFFICE OF THE COMMANDING GENERAL  
APO 357  
C/O POSTMASTER SAN FRANCISCO, CALIF.

*to*  
Toshisada Tokada,  
Senior Japanese Commander Amami Gunto.



RA'-0621

0296

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan











HEADQUARTERS TENTH ARMY  
OFFICE OF THE COMMANDING GENERAL  
APO 357  
C/O POSTMASTER SAN FRANCISCO, CALIF.

5 September 1945

SUBJECT: Acknowledgement.

TO : Toshisada Tokada,  
Senior Japanese Commander Amami Gunto.

1. Your letter of 3 September addressed to the Commanding General, 10th Army, and delivered by your representative is acknowledged.
2. Your representatives are returning with complete instructions for you.

BY COMMAND OF GENERAL STILWELL:

FRANK D. MERRILL  
Major General, USA  
Chief of Staff.

昭和二十一年三月十八日

奄美群島ノ戦後處理ニ就テ  
目次ノ下欄ニ要旨ヲ記入ス

元、奄美守備隊長  
高田利貞

0008

RA<sup>9</sup>-0621

0299

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

天ハ正義ニ與シ  
神ハ至誠ニ感ズ

序

復員後上司へ報告せしむる郡關係者へ申シタルトコロ筆記セル  
モノヲ要求セラルルニ應ジテ  
敢テ印刷シ更メテ微衷ヲ披瀝シ萬世ニ巨ル太平ノ礎ニ貢獻セントス  
一資料トナラバ幸甚ナリ  
尙御教示ヲ乞フ

昭和二十一年二月上旬

高田利貞

昭和二十一年二月八日

0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

RA'-0621



奄美群島ノ戦後處理ニ就テ

目次並ニ要旨

目次	頁	要旨
第一、緒言	七	現地ニ於テ「奄美群島ハ鹿兒島縣ニ屬シ九州ノ一部ニシテ琉球トハ全然別ナルコト」ヲ米軍ニ理解處理セシメタリ 國境或ハ信託統治範圍ヲ正シク決定シ萬世ニ亘ル太平ノ基礎ヲ固成セラレンコトヲ
第二、現地ニ於ケル折衝ノ概要	七	「沖繩ヘ代表ヲ送レ」トノ要求ニ對シ小官自ラ赴カントセシモ謝絶セラレタルヲ以テ書信ヲ送レリ 國境ヲ適正ニシテ萬世ニ亘ル太平ノ礎ヲ固クセントシ奄美群島ヲ場ニ「アルサスローレン」タラシメヌ様絶大ナル努力ヲ乞フ
第一書信發送マデノ経緯	七	(承認)
2. 米第十軍司令官宛小官ノ第一書信	九	
3. 石ニ對スル返信	一一	
三 奄美群島ハ鹿兒島縣ニシテ琉球ノ一部ニアラザルヲ米軍ニ理解セシメタル経緯ノ概要	三	(1) 「北部琉球ノ兵器ヲ引渡スベシ」トノ指令ニ對シ奄美群島ハ鹿兒島縣ニシテ琉球ノ一部ニアラザルコトヲ理解セシム
八 武装解除時ノ折衝	三	

0010

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0621





2. 復員時ノ折衝	一七
3. 官民ノ努力	三三
第三、奄美群島ニ於ケル米軍ノ宣撫並ニ取締リ狀況	三三
一 概 説	三三
二 宣撫ノ概要	三三
三 船舶航行ノ取締リ	三三

(四) 「エドワード」大佐ヲシテ「スチルウェル」大將ニ代リ「北部琉球」ヲ「沖繩ノ北方北緯三十度迄」ト改メシム

(ハ) 「内地ヨリ奄美群島ニ來任中ノ人員ヲ速カニ報告セヨ」トノ指令ニ對シ「奄美群島ハ内地ナリ、九州ナリ、鹿兒島縣ナリ、内地ヨリノ來任者ニテハ意味不明」ト答ヘ

「大島支廳管外ヨリ來任セル内地人ノ意ナリ」トノ答ヲ得

(イ) 「北部琉球ノ全日本國民ヲ早ク順調ニ本國ニ歸ヘス」トノ公文書ヲ本書ハ有答ニ付トテ返シタルニ一語ナク受領セリ

(ロ) 「全日本人ヲ速カニ本土ニ歸セ」トノ指令ニ對シ「此ハ無人島ナルゾ」ト述べ再指令ヲ要求セルニソノ儘トナレリ

(ハ) 復員完結ノ證明書ニ「北部琉球」トアリタルヲ「大島郡」ト改メシム

支廳ヨリ米軍ニ送ル文書ニハ常ニ鹿兒島縣ト頭書ス

最初相當ニカヲ入レタルモ現在大ナラズ

未ダ米軍ノ進駐ナシ

(イ) 當初北緯三十度線ノ通過ハ百屯以下ノ小船モ許可ヲ要セシ



第四、其他

一、米國ハ何故ニ奄美群島ヲ外地トセシヤノ一考察

三四

二、石ニ對スル吾人ノ態度ヲ如何ニスベキヤ

三四

三、奄美群島ニ關スル吾人ノ先入感ヲ除去スルヲ要ス

三四

四、米軍ノ一舉一動ニ神經過敏ナル勿レ(小官ノ失敗セシ一例)

五、捕虜ヨリ感謝ノ手紙ヲ受ク

三五

六、終戦後米機德之島飛行場ヲ銃撃ス

三五

カ現在六百屯級ノ船舶モ奄美群島南端(沖繩トノ縣界)マデ許可セラレアリ  
(四) 乗客ノ届出モ現在特別ノコトナシ

(イ) 米國ノ地圖ハ奄美群島ヲ北部琉球トナシアリ  
(ロ) 米海軍ノ擔任ナル爲外地ト見ナセシト

右ニ關係ナク歸屬問題ニ關シテハ一日一刻ヲ忽ニセズ着々善處ヲ要ス

「米國ガ奄美群島ヲ手離スモノカ」トノ先入感ヲ除去スルヲ要ス

三

是レ時勢ノ進運特ニ飛行機ノ發達等ヲ知ラザルノミナラズ「米軍ノ正シキニ從フ雅量」ヲ知ラザルモノナリ

「喜界島ノ復員ヲ即刻實施スベシ」トノ指令ハ結局飛行機使用ノ爲ナラント判断セシガ豈計フンヤ大島支隊長ノ話セン食糧對策ニ過ギザリキ

(イ) 捕虜沖繩ノ米軍へ復歸スルニ方リ感謝ノ手紙ヲ殘セリ  
(ロ) 捕虜ノ一名病死セシガ其ノ際及葬送等ノ取扱ニ對シ其ノ戰友及視察員等感謝セリ

(イ) 九月十八日米機銃撃セリ

0012

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

RA'-0621

0303

七 米第十軍ノ解散

三九 武装解除終了後間モナク解散セリ  
爾後奄美群島ニ對スル米軍ノ活動  
弱化セリ  
我人員ニ損害ナシ、米軍ハ直チ  
ニ參謀少將ヲ長トシ法務官ヲモ  
加ヘ現場調査ヲナス  
犯人ハ着陸ノ際墜落死亡セリ  
小官ハ米軍ノ誠意ニ信頼シ特ニ  
要求スルトコロナキヲ言明セリ  
(要求ヲ歸屬ノ一點ニ集中ス)

八 沖繩基地司令官

三〇 司令官ハ師團長「ローソン」少  
將ナリ  
小官等調印ノ爲沖繩ニ至リシ時  
ハ未ダ大佐ナリキ(縮小ノ程度  
知ルベシ)

九 我カ部下將校五十三名沖繩  
ニ殆致セラレアリ

三〇 比律賓海軍ノ指揮下ニ在リ  
戰爭犯罪嫌疑者ニ非ズト信ズ  
奄美群島研究ノ爲ナランカ

十 米軍ノ在奄美群島沖繩人ニ  
對スル取扱ノ一端

三〇 在來ノ生業ニ從事セシメアリ  
理由ハ現在沖繩ニ在ル者ノ生活ヲ  
先ヅ安定セシムルニ在リト

第五、結 論

三一 國境ヲ適正ナラシムルハ世界平  
和ノ爲絶対必要ナリ  
四 奄美群島ヲ日本本土タラシムル  
ハ勿論之ヲ信託統治ヨリ除外ス  
ルコトハ平和ノ礎ヲ固クスル爲  
ニ必要ナリ  
ハ) 殊ニ大島海峽ノ價值昔日ニ比シ  
減少セル今日米國ハ之ヲ放棄ス  
ベキナリ



附 録

附録第一  
奄美群島ノ將來性  
一 概 説

二 經濟事項

三 住民増加力

附 録 第二

現地ノ米軍ハ奄美群島ヲ如何  
ニ認識シアリヤ  
一 現地米軍ハ奄美群島ガ沖繩  
縣ト全ク別ニシテ鹿兒島縣  
ナリ九州ナリ内地ナルコト  
ヲ理解シアリ  
二 現地米軍ガ理解セリト認ム  
ル具体的事項  
附録第三  
米軍ハ奄美群島ノ價值ヲ如何  
ニ判断シアリヤ

三

(一) 米本國ノ官民ニ訴ヘ正シキ米國  
輿論ノ支持及ビ聯合各國ノ正シ  
キ理解ヲ得ルヲ要ス  
(二) 奄美群島ハ戰爭中米軍ニ一步ヲ  
踏マシメズ尙捕虜ノ取扱適正ナ  
リシコトヲモ考慮セラレ度  
當事者ノ參考ノ爲蛇足ヲ添フ

砂糖ノ產地トシテ臺灣ノ後ヲ繼グ  
立場ニ在リ、糧食増産及住民増加  
ノ余力アリ

(イ) 砂糖ノ年産約九千挺  
(ロ) 米ハ三毛作ニシテ年産八萬石ガ  
目標

(ハ) 甘藷ハ年産十萬貫ガ目標  
五

(ニ) 蘇鐵ノ穀粉ヲ多産シ食料トナシ  
アリ

(ホ) 牛、鳥、百合ノ根、大島~~油~~アリ  
五萬ハ容易十萬ハ困難ナラズト認  
ム

行政、民族、風習、言語及歴史ヲ  
モ研究理解シアリ

三四

三三

一 米軍ハ大島海峡及ヒ徳之島  
飛行場ニ價值ヲ認メアルナ  
ラン

三四

二 大島海峡ニ就テ

三四

三 徳  
海之島飛行場ニ就テ

(イ) 大島海峡ニ最モ近キ飛行場トシ  
テ時々使用シアリ

四 颱風ニ就テ

(ロ) 飛行機發達シ且艦隊大トナリシ  
今日價值減少セリ

五 其他

(ハ) 颱風避難港トシテノ價值モ信賴  
ヲ減少セリ

附圖  
米陸海軍管轄區域及指揮系統  
圖

二 同ノ颱風ヲ体験シ余リ好マシキ  
土地ニアラスト感じタルガ如シ

六

飯匙蛇、癩病及「フィラリヤ」病  
多キコト及ビ赤痢、「チブス」等

年中散發シアルコトヲ米軍承數セ  
リ

0015

奄美群島ノ戦後處理ニ就テ

第一、緒言

奄美群島ヲ防衛スベキ奄美守備隊長ノ任務ハ戰時、戰後ヲ論ゼズトノ決心ヲ以テ戰後處理ニ邁進セリ

幸ニ我陸海軍ノ密接ナル協同、軍官民ノ一致協力及米軍ノ正シキ理解ニ依リ現地ニ於テハ概ネ適切ニ處理シ奄美群島ハ鹿兒島縣ニ屬シ九州ノ一部ニシテ琉球トハ全然別個ナルコトヲ理解處理セシメタルモノト信ズ

然レドモ歸屬ノ決定ハ將來ニ殘サレタル問題ナリ、當學者ノ絶大ナル努力ニ依リ有終ノ美ヲ發揮シ米國ノ正義及雅量ト相俟チテ國境或ハ信託統治範圍ヲ止シク決定シ萬世ニ亘ル太平ノ礎ヲ固成セラレムコトヲ祈念シテ已マズ

第二、現地ニ於ケル折衝ノ概要

一 米第十軍司令官「スチルウエル」大將ニ送リタル第一書信

ノ第一書信發送マテノ経緯

(1) 八月二十九日米第十軍司令官「ジョセフ・W・スチルウエル」ヨリ奄美群島最高指揮官ニ宛テ左記要旨ノ來電アリ(此ノ前ニ無電ニ關スル指令ノ通信尙ヲ受ケ)

記

「左記ノ奄美地區全日本軍降伏調訂ノ爲使節ヲ即刻飛行機ニ依リ沖繩第十軍司令部ニ送ル準備ヲサレ度シ

30 W-1/28 B, 27 W-1/28 B, 27 W-1/3 B, 30 W-1/3 B,

尙準備スベキ情報其ノ他ヲ要求セリ

(2) 之ニ對シ小官ハ左ノ返電ヲ發セリ

「予ハ九州方面最高指揮官陸軍中將横山勇ノ指揮ヲ受ケアルヲ以テ獨斷處置スルヲ得ズ故ニ直チニ其ノ方ニ照會シ返事スベシ



又奄美太島等ノ海軍部隊ハ予ノ指揮下ニアラザルヲ以テ連絡ヲ爲シ準備スベシ

尙我万ニハ飛行機一機モナシ、船モ大發動艇以外ニナシ

(ハ)右返電ト同時ニ第十六方面軍司令官宛右要旨ヲ電報シ指示ヲ仰

グト共ニ代表者ハ方面軍ヨリ派遣セラレ度ク意見具申セリ

(ニ)海軍指揮官モ之ト同時ニ佐世保鎮守府司令長官宛同要旨ノ電報ヲ發セリ

(ホ)八月三十一日米第十軍司令官ヨリ左ノ要旨ノ電報ヲ受領ス

「九月三日降伏ニ關スル指示ヲ受クベク沖繩ニ代表ヲ送レ」

(ヘ)右ニ關シ九月二日左ノ返電ヲ發ス

1.九州方面最高指揮官ヨリ未ダ命令ヲ受領セズ(通信圓滑ナラ

ズ)

2.明日貴飛行機到着迄命令ヲ受領セザル時ハ小官ハ副官及當

番兵一名ヲ伴ヒ貴地ニ到リ陸海軍幕僚ヲシテ九州方面指揮官

八

ノ命令ヲ受領追及セシメントス

但シ予ノ出發前命令到着セル場合ハ命令ニ依リ行動ス

(ト)小官ハ之ト同時ニ第十六方面軍司令官宛左ノ電報ヲ發ス

1.明日三日沖繩ヨリ飛行機到着ノ筈

2.飛行機到着迄ニ貴命令ヲ受領セザル場合ハ旅團高級部員及海

軍參謀ヲ德之島ニ殘シテ命令ヲ受領セシメ小官自ラ副官ヲ伴

ヒ沖繩ニ到ラントス認可アリ度

3.小官沖繩到着後モ幕僚到着迄ハ交渉セズ少クモ調印ヲ差控ヘ

置ク心算

全般ノ狀況ニ依リテハ獨斷善處スルコトアルベシ

但 大御心ヲ心トシ至誠一貫大道ヲ闊歩シ小細工ヲ避ケ

後戻ヲ發揚センコトヲ期ス

(チ)九月三日米第十軍司令官ヨリ左ノ來電アリ

九月三日貴官ノ沖繩へ來ルコトハ望マズ

貴官へノ指令ヲ受領スベク代表ヲ送ラレ度シ

0018

米第十軍司令官宛小官ノ第一書信  
小官ノ沖繩行ハ謝絶セラレタルヲ以テ奮信ニテ胸中ヲ披歴スル  
ニ決ス 其ノ目的トスル處ハ奄美群島防衛ノ任務ヲ達成スルト  
共ニ萬世ニ亘ル太平ノ礎ヲ固クシ承諾必謹ノ實ヲ擧ゲントスル  
ニ在リ

蓋シ戦後決定セラルベキ國境ノ適正ハ萬世ニ亘ル太平ノ礎ヲ固  
クスル爲率對必要ト信ジタレバナリ

「スチルウエル」大將宛第一信

拜 啓

閣下ノ台名ハ豫テヨリヨク承ツテ申シタノテ通信第一號ノ御  
署名ヲ拜見致シマシタ時非常ナ親ミヲ感ジマシタ  
次テ代表者ヲ送ルコトニナリマシタトキ私自身參ル決心ヲ致シタ  
ノデアリマス  
自ラ參ル決心ヲ致シマシタニ就キマシテハ幾ツカノ動機ガアリ

九

マスガ其ノ一ハ閣下ノ偉大ナル御力ニ依リマシテ平和ノ礎ヲ盛  
クシ履イ御願ヒガアツタカテデアリマス  
即チ奄美群島ヲ第二ノ「アルサス・ロウレン」タラシメヌヤウ  
ニ閣下ノ甚大ナル御盡力ヲ御願ヒ致シ度イト思ツタカラデアリ  
マス 私カ拜眉ノ光榮ヲ待マセヌノゲ失禮ナガラ代表者ニ手紙  
ヲ託シマス ヨロシク御願ヒ致シマス  
乍末閣下ノ御健康ト御幸福トヲ祈リマス

敬 白

昭和二十年九月三日

奄美群島陸軍最高指揮官

陸軍少將 高 田 貞

米國第十軍司令官

大將シヨセフ・W・スチルウエル閣下

RA'-0621

0309

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

Joseph W. Stilwell

General U.S. Army Commanding Okinawa

3, September 1945.

Your Excellency

I have had the honour to hear your famous name from before. So I felt great friendliness to you at the sight of your signature in your message No. 1 to me. When you demanded to dispatch a representative, I made up my mind to visit you myself. My determination to call on you myself is due to several motives, one of which is my sincere wish of strengthening the basis of peace between the two nations by your very great effort. Namely I long for your lending us your powerful influence over Amami Gunto problem not to make these islands "the second Alsace-Lorraine." I entrust this letter with my representative, not having the honour of meeting you. I hope you your sincerity to give us your hearty helping. I pray your health and happiness.

Yours respectfully.

Toshisada Takada

Major General Japanese Army Senior Commander  
Amami Gunto.

10

0019



0020

3. 右ニ對スル返信（原文ハ保管ヲ外務省ニ委任ス）  
 一九四五年九月五日  
 奄美群島最高ノ指揮官 高田利貞へ  
 一 貴代理者ノ持チ來レル九月三日附第十軍司令官宛貴翰承認ス  
 二 貴方代理者ハ貴官宛ノ完全ナル諸指令ヲ携ヘ歸還ス  
 「ステイルウエル」將軍ノ命ニ依リ  
 米軍參謀長 少將 フランク・D・メリル

5 September 1946

SUBJECT: Acknowledgement.

To : ~~Staff~~ Toshiyada Takada,  
Senior Japanese Commander Amami Gunto.

1. Your letter of 5 September addressed to the Commanding General, 10th Army, and delivered by your representatives is acknowledged.

2. Your representatives are returning with complete instructions for you.

BY COMMAND-OF GENERAL STILLWELL:

FRANK D. MERRILL  
Major General, USA  
Chief of Staff.

RA'-0621

0311

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

ニ奄美群島ハ鹿兒島縣ニシテ琉球ノ一部ニアラザルヲ米軍ニ理解セシメタル経緯ノ概要

ノ武装解除時ノ折衝

(1) 武装解除ノ先發トシテ九月二十一日米第十軍「カンドン」大佐  
徳之島ニ來リ「北部琉球ノ兵器ヲ引渡スベシ」トノ指令ヲ交付  
セリ 小官ハ「北部琉球ハ予ノ管轄外ナルヲ以テ引渡スベキ一  
箇ノ兵器ナキ」旨ヲ答フ

「カンドン」「貴官ガ此地ニ有スル兵器ヲ引渡セバ可ナリ」

高田「此處ハ奄美群島ニシテ北部琉球ニアラズ」

「カンドン」「奄美群島ハ北部琉球ナリ」

高田「何ニ依リテ斯ク言フヤ」

「カンドン」「米軍ノ地圖ニ明ラカナリ」

高田「ソレハ米軍地圖ノ誤ニシテ日本軍ニハ通用シ難シ、北部  
琉球ハ沖繩本島ノ北半部ナリ 奄美群島ハ九州ナリ希クハ第十

軍司令官ニ電報シ北部琉球ヲ訂正セラレ度」

「カンドン」「予ハ電報セズ」

高田「然ラバ予ニ於テ電報スベシ」ト云ヒツツ電文ヲ記シ始ム

「カンドン」「予起案スベシ」

高田「頼ム」

「カンドン」「之ニテ可ナリヤ」トテ案文ヲ渡セリ小官ハ之ヲ

通譯ニ渡ス

原田通譯「北部琉球ノ兵器ヲ引渡スベシト指令セラレタルモ北  
部琉球ハ沖繩島ノ北半部ナルヲ以テ北部琉球ヲ奄美群島ト訂正  
セヨ」

高田「ヨシ、打電セヨ」トテ捺印ス

「カンドン」「待テ、貴官ハスチルウエル大將ニ命令スルヤ」

高田「命令スルニ非ズ指令ヲ受クルナリ」

「カンドン」「之ハ命令文ナリ」

0021

高田「文責ハ貴官ニ在リ」

「カンドン」 「打電ヲ待テ」

高田「予自ラ作爲スベシ」

「カンドン」 「貴官ノ打電ヲ禁ズ」

高田「然ラバ奄美群島ノ兵器ヲ北部琉球ノ兵器ト稱シ引渡シテ可ナリヤト御裁下ヲ仰グベシ、御裁下アル迄兵器受領ヲ待タレ度シ」

「カンドン」 「予ハ一個師團ノ兵力ヲ以テ強制受領スベシ」

高田「予ハ假令銃殺セラルルコトアルモ此地ノ兵器ヲ北部琉球ノ兵器トシテ引渡スベシトハ予ノ口ヨリ言フヲ得ズ」

彼我睨ミ合ヒテ緊張セル數分間續キシ時中溝高級部員「沖繩ヨリ電報ガ來マシタ」トテ電報及譯文ヲ渡セリ

高田「見ヨ、スチルウエル大將ハ予ノ意中ヲヨク知レリ、奄美群島所在ノ兵器受領ト電報シ來レリ」

一三

「カンドン」大佐手ヲ差出シテ電報ヲ受領シ一讀シテ胸ニ十字ヲ切り兩手ヲ左右ニ擴ゲ安心ノ態度ヲ示ス

小官亦夫佑神助ナリト感ズ

斯クテ微笑シテ握手ヲナシ明日ヨリノ兵器授受ヲ圓滑ニ行フベキヲ約シテ別ル

面會初メヨリ約三時間議論正ニ二時間半ナリ

電文及譯文左ノ如シ



RA<sup>9</sup>-0621

0314

21 September 1945

From Commanding General  
Tenth United States Army

To Senior Commander  
Japanese Army Amami Gunto

This is my message number 36

A task group of tenth army under command of Colonel

Edwards will arrive by ship off Tokunoshima early morning 22 September,  
for landing at Hedono.

Colonel Edwards is authorized to issue orders in my name and will  
give further instructions on arrival.

Primary mission is receipt and disposition of arms in Amami Gunto  
and Tokera Gunto.

You will furnish competent senior staff officer acquainted with all  
army installation to accompany Colonel Edwards throughout islands of

一四

0023

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

0024

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

右 譯 文

奄美群島最高司令官殿  
 「エドワード」大佐指揮下ノ米第十軍機動群團ハ平上野上陸ノ  
 目的ヲ以テ九月二十二日早朝徳ノ島沖合ニ船舶ニヨリ到着ス。  
 「エドワード」大佐ハ予ノ名ニ於テ命令ヲ發スル權ヲ與ヘラレ  
 到着次第更ニ指令ヲ發スベシ。其主要任務ハ奄美群島並ビ「ト  
 カラ」群島所在ノ兵器ノ受領及ビ處理ナリ  
 貴官ハ全陸軍ノ指付施設物（陣地）ニ明ルキ充分資格ノアル高  
 級幕僚ヲ差出シ（電文未着）ノ諸島ヲ通ジ「エドワード」大佐  
 ニ隨行セシムベシ  
 九月二十一日 米第十軍司令官

(四) 翌九月二十二日「エドワード」大佐以下徳之島ニ到着シ早速  
 諸授受ノ具体的交渉ヲ行ヒ翌二十三日九時ヨリ之ヲ實施スベキ  
 一五

ヲ約シテ別  
 (三) 其夜前電ノ全文到着セリ  
 以下ハ *mainstream Ryukyus* トアリ

(二) 二十二日九時徳之島平上野海岸ニ於テ「エドワード」大佐ト面  
 會シ先ツ前夜ノ電文ヲ示シ  
 高田「『北部琉球』ニテハ兵器ヲ引渡シ難キ予ノ意見ヲ承知シ  
 アリヤ」  
 「エドワード」「カンドン」大佐ヨリヨク承知シアリ」  
 高田「然ラバ軍司令官ニ電報シテ之ヲ訂正セラレ度シ」  
 「エドワード」「予ハ全權ヲ委任セラレアルヲ以テ電報ノ要ナ  
 シ」  
 高田「然ラバ貴官ハ「スチルウエル」大將ノ名ヲ以テ之ヲ訂正  
 セラレ度シ、予ハ兵器引渡シヲ濫ルニ非ズ、北部琉球ハ予ノ權

RA'-0621



0025

限外ナルヲ以テ本電ニテハ予ハ處置スルヲ得サルナリ」

「エドワード」大佐消々暫クシテ鉛筆ヲ執リ *of northern*

*Roughly* ヲ抹殺シ *north of Okinawa to 30° north*

*latitude*

ト記シ(譯文、沖繩ノ北方北緯三十度迄)

「エドワード」之ニテ宜シキヤ」

高田「ヨロシ」

「エドワード」大佐ハ鉛筆ノ上ヲ「ペン」ニテ清書シ更ニ

*Gen. General Stilwell*

*G. B. Edward*

*Col. F. A.*

*Commanding Tenth Army Dist.*

(譯文、「マチルウエル」大將ニ代リテ

第十軍第一機動集團指揮官

砲兵大佐 E. B. エドワード)

一六

ト記シテ小官ニ手交セリ(原文ハ外務省ニ保管ヲ委任ス)

茲ニ於テ小官ハ爲シ得ル限り兵器授受ヲ圓滿迅速ニ實施スベキ

ヲ約シ區チニ實行ニ移レリ

(㉒)九月二十四日沖繩米軍司令部ヨリ飛行機來リ「エドワード」大

佐ハ之ニ搭乘沖繩ヘ到ル「エドワード」大佐夕刻歸來シ明

逐艦及LST一雙ヲ以テ奄美大島ニ先行スルヲ以テ高級部員(兵

器交付委員長)等ヲ同行セシメラレ度ト申出ツ

(㉓)小官ハ之ヲ許シ一行ハ二十五日早朝出發セリ

(㉔)高級部員ヨリノ報告ニ依レバ驅逐艦及LSTハ大島海峡ニ入ル

ニ先立チ停船シ「エドワード」大佐ハ端艇ニ移乘シ爾後「カン

ドン」大佐(先發トシテ來リ議論セシ者)「エドワード」大佐

ノ業務ヲ代行セリ

「エドワード」大佐ハ悲ラク沖繩ニ歸ヘリシナラン、何ガ故ニ

歸ヘリシカ明カナラサルモ前日獨斷ノ電文訂正ニ基因スルニ非

RA'-0621

0316

ザルカ

(六)「カンドン」大佐喜界島ノ兵器受領中中溝高級部員ニ次ノ指令ヲ與ヘ高級部員ハ直チニ之ヲ電報報告セリ

指令

「内地ヨリ奄美群島ニ來任中ノ人員ヲ速カニ報告セヨ」

小官ハ高級部員ニ次ノ通り返電シ「カンドン」大佐ニ頭躒セシム

「奄美群島ハ内地ナリ九州ナリ鹿兒島縣ナリ 内地ヨリノ來任者ニテハ意味不明」同時ニ各島ノ部下ニ命ジ大島支廳管外ヨリノ來任内地人員ヲ報告セシム

翌日「内地人トハ大島支廳管外ヨリノ來任内地人ノ意ナリ」ト返電アリタルヲ以テ豫メ處置セシ處ニ依リ直チニ電報ス

2. 復員時ノ折衝

(1) 十一月七日沖繩基地司令部指揮官「ローソン」少將代表トシテ

一七

「ロイストン」中佐徳之島ニ來リ

「貴隊ノ復員ヲ迅速且順調ニ實行スル爲代表トシテ派遣セラルタリ」ト述ブ

小官之ニ謝意ヲ表シ事務折衝ニ移レリ 此ノ時印刷物ヲ手交セラルヲ以テ之ヲ通譯<sup>渡</sup>シ翻譯セシム

(四) 食時右文書ヲ閱スルニ「ロイストン」中佐ノ紹介狀ニシテ左ノ一項アリ

「北部琉球ノ全日本國民ヲ早ク順調ニ本國へ歸ヘス目的ヲ以テ云々

予ハ其ノ全文ヲ寫シテ保存ヲ準備シ業務ニ就テハ午後モ之ニ關ルルコトナク交渉ヲ續行シ其ノ間奄美群島ノ特性ヲ詳細ニ説明シ彼モ亦ヨク理解セルガ如シ

(ハ) 夕刻トナリ「ロイストン」中佐等驅逐艦ニ歸ル爲棧橋ニ到リタルトキ小官ハ今朝受領セル文書ヲ取り出シ

0026



高田「本日予ハ貴官ノ言ニ依リ業務ヲ執行セリ  
本文書ヲ閱スルニ「ノトザン・リュウキウウ」ノ語アリ（此ノ  
時「ロイストン」中佐微笑シ隨行ノ中尉二名モ同時ニ微笑ス  
彼等ハ「北部琉球」ニ就テ小官ノ反對ヲ豫期シアリタルナラシ  
ト感ズ）當地ガ北部琉球ニ非サルコトハ貴官十分諒解セラレタ  
リト信ズ  
予ハ貴官ノ言ニ依リ貴官ガ沖繩基地司令官ノ代表ナルコトヲ確  
認ス 本書ハ有害ナルヲ以テ之ヲ返ス」ト言ヒテ文書ヲ渡シタ  
ルニ「ロイストン」中佐ハ一語ナク之ヲ受取リ「ポケット」ニ  
納メタリ  
返シタル文書ノ原文及譯文左ノ如シ

0027

RA'-0621

03 18

HEADQUARTERS OKINAWA BASE COMMAND  
OFFICE OF THE COMMANDING GENERAL

APO 331

2 November 1945

385,6 (TDGGG)

Subject; Letter of Credentials.

To; Rear Admiral Kato Tadao

Senior Japanese Commander Navy Forces Amami Gunto

Maj. Gen. Takada Toshisada

Senior Japanese Army Commander Amami Gunto

1. The bearer Charlie A. Reyston Lieutenant Colonel, Quartermaster Corps, is hereby named as my personal representative.
2. In this capacity he will perform liaison missions with the Senior Japanese Army and Navy Commanders in the Amami Gunto for the purpose of effecting a prompt and smooth repatriation of all Japanese nationals in the Northern Ryukyus.
3. Colonel Reyston is authorized to issue such orders as he deems necessary to the accomplishment of his mission.
4. Complete cooperation by all concerned is enjoined.

L. A. Lawson

Brigadier General, U. S. Army  
Commanding

沖司第三三一號

一九四五年十一月二日

沖繩基地司令部指揮官事務室

紹介状

宛 奄美群島日本海軍最高指揮官 海軍少將 加藤、唯雄  
名 陸軍最高指揮官 陸軍少將 高田、利貞

「此ノ手紙ヲ持參セル者ハ給養部隊ノ「チャリィ・A・ロオイ  
ストン」中佐デ自分ノ直接代表者ト任命セル者ナリ

「北琉球ノ全日本國民ヲ早ク順調ニ本國へ歸ス目的デ、奄美群  
島ノ日本陸海軍指揮官ト連絡ヲ行フ

三、「ロオイストン」中佐ニハ其ノ目的ヲ果ス爲ニ如何ナル命令  
ヲ發シヨウトモ命令權ヲ課シテ居ル

四、此レニ關係シタ者ハ完全ナル協力ヲ命ズ  
米陸軍指揮官 L. A. ローソン少將

三〇

(二) 其ノ後米艦船大島海峽ニ碇泊中在古仁屋ノ中溝高級部員ニ對シ

「ロイストン」中佐ヨリ左ノ要求アリ

「管外ヨリ來住セル内地人ヲ速カニ本土ニ歸還セシムベシ」

高級部員ハ直チニ之ヲ電報報告セリ

本電報受領後聞キナク「ロイストン」中佐徳之島ニ來レリ 俄

テ本處置ノ目的ヲ問フ

「ロイストン」「分ラヌ」

高田「分ラヌコトヲ何故指サスルノカ」

「ロイストン」「司令官ヨリノ要求ナリ」

高田「何ト言ツテ來タ」

「ロイストン」中佐受領セル電文ヲ示ス

之ヲ見ルニ *All Japanese* 云々トアリ

高田「*All Japanese*」ヲ引擧ゲタラ後ハ無人島ニナルゾ」

「ロイストン」「自分ハ分ツテキル」



0030

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

高田「ソレデモヨイノカ」

「ロイストン」「一度照會スルカラ實行ハ暫ク待テ」

高田「次ノ指令ヲ受ケタル迄ハ本指令ヲ受ケナカツタモノトシテ  
何モセズニ置クガヨロイシカ」

「ロイストン」「ヨロシイ」

(外)本交渉後大島支廳長ヨリ同様ノ意味ヲ各離島ニ傳ヘラレ度シト  
ノ依頼電アリ(當時各島ノ連絡ハ軍ノ無線ニ依リ維持シアリタ  
リ)依テ前項交渉ノ結果ヲ通報シ各離島ヘノ通知ハ之ヲ爲サザ  
ル旨返電ス 之ニ關シテハ其ノ後何等ノ指令ナシ

從ツテ何等ノ處置ヲ爲サズ

註、最近ノ情報ニ依レバ大島支廳竝ニ之ヲ傳ヘ聞キタル九州本  
土ヨリノ來住者ハ今尙不安ノ模様ナリシニ付小官ヨリ好便ニ  
托シ右ノ真相ヲ傳言セリ

(内)復員輸送完了時小官ハ古仁座ニアリシガ米軍ヨリ「復員完了」

三一

ニ署名ノ爲日本海軍司令部ニ來レ」トノ指令アリ

直チニ瀨相ニ到ル、小官判看セル時海軍ハ既ニ署名ヲ終リアリ

(内)海軍參謀及陸軍參謀「復員完了セル證明書ナリ」トイフ

小官ハ直チニ五枚ニ署名シ念ノ爲一讀ス

「北部琉球ノ日本軍ハ現地出身者ノ現地復員ヲ除キ全部完了セ  
リ」ト記サレアリ

高田「今ニナツテ北部琉球ノ復員完了ニ署名サセルトハ何タル  
コトカ」

「ロイストン」「司令部カラ此文句ヲ言ツテ來タノダ」

高田「之テハ駄目ダ」ト言ヒツツ今ノ署名ヲ五枚トモ抹殺ス

「ロイストン」「何ト書ケバヨイカ」

高田「奄美群島」

「ロイストン」中佐日本海軍指揮官ニ向ヒ「海軍モ訂正ヲ要ス  
ルヤ」

RA<sup>9</sup>-0621

0321



0031

# 外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

海軍指揮官「訂正スル方ガヨロシイ」

「ロイストン」「奄美群島ニテ可ナリヤ」

海軍指揮官「奄美群島及「トカラ」群島トナスヲ要ス」

米側「「トカラ」群島ノ北部ハ北緯三十度以北トナル」

米軍政監部ノ「ジャツクソン」少佐「大島群ニテハ如何」

高田「ヨロシイ」

「ロイストン」「海軍ハ如何」

海軍指揮官「ヨロシイ」

「ロイストン」「然ラバ訂正印刷シテ來ルカラ署名サレ度」

陸海軍指揮官「承知」

「ロイストン」中佐一行ハ一應米艦逐艦ニ歸リ我等ハ復員輸送

船羽節丸ニ乗ル

「ロイストン」中佐一行訂正セル印刷物ヲ持チ來リタルニ

依リ之ニ署名シ我等ハ歸還ノ途ニ就ケリ

二二

3. 官民ノ努力、官民亦軍ト一体トナリ米軍ニ對シ正シキ認識ヲ與フルコトニ努力セリ

特ニ大島支廳ヨリ米軍ニ提出スル書類ニハ全部特ニ鹿兒島縣ト以

審シ「鹿兒島縣大島支廳長」或ハ「鹿兒島大島郡」ト記シアリ

第三、奄美群島ニ於ケル米軍ノ宣撫竝ニ取締リ狀況

## 一、概説

當初相當ニ力ヲ入レタルモ現在大ナラズ

## 二、宣撫ノ概要

1. 兵隊接收時各方面ヲ視察スルト共ニ示威的行軍ヲ實施セリ

2. 食糧品、衣糧品等ヲ官民ニ交付セリ

3. 引上軍需品、家屋等ヲ官民ニ交付セリ

4. 十一月頃六週間米軍德之島ニ進駐ノ情報アリシモ未ダニ奄美群島

ノ側レノ島ニモ米軍ノ進駐ナシ

5. 之ト同時同ジウツテ德之島飛行場ノ大修理ヲ指令シ來レリ、官民

RA'-0621

0322

延べ二萬人余ヲ以テ修理ヲ完了セシガ當初ノ指令ニテハ表面ヲ册  
翫ニテ固ムル様要求アリ之カ爲必要ナル「ダイナマイト」ヲ請  
求セシ處其ノ翌日飛行機ニテ送付シ來レルモ其後「ローラー」ヲ  
要求セル際ハ「ソレ程良好ナラシメズトモ可ナリ」ト述べ遂ニ賞  
與セズ

(米軍ノ德之島飛行場使用見込ノ一端ヲ察知スル參考トモナルベ  
シ)

6. 右飛行場修理ニ從事セシ官民へハ當初料命支拂ノ豫定ナリシガ如キ  
モ十二月ニ入り他ノ島民ニハ唯贈與セシ食糧及醫療品等ヲ德之島  
ニテハ之ヲ飛行場補修ノ代償トシテ交付セリ(其ノ後更ニ處置セ  
シヤ否ヤハ不明)

7. 奄美守備隊ノ復員ニ方リ奄美大島德之島陸軍病院ハ之ヲ殘置シ傳  
染病ノ撲滅ニ從事セシムル豫定ナリシモ十二月中旬ニ至リ他部隊  
ト同時ニ復員セシムル旨指令アリタリ(進駐ト關聯アルモノト認

### 三 船舶航行ノ取締リ

終戦後暫クハ百屯以下ノ小船ト雖モ北緯三十度ノ通過ヲ禁ジ居リシ  
ガ十月奄美群島南端(沖繩トノ縣界)迄差支ナキ指令アリ  
續イテ百五十屯級船モ同様ニ許可セラレ現在ハ六百屯級ノ船舶モ具  
論島(奄美群島南端)迄許可セラレアリ  
渡航者ノ届出モ當初極メテ嚴ナリシガ現在一般人ノ航行ニハ特別ノ  
手續ヲ要セズ

### 四 選挙除外問題

1. 富初北緯三十度以南ハ百屯以下ノ船舶航行スラ許可ヲ要シ選挙ノ  
如キハ問題トナラザリキ  
2. 沖繩縣ノ選挙ハ勅令ニヨルコトナリタルモ鹿兒島縣ハ此ノ點ナ  
カリシヲ以テ鹿兒島縣縣令ヨリ選挙準備ノ指令アリ選挙用紙等モ分配セラレタリ  
3. 本軍ハ北緯三十度以南ヲ外地扱トナシアル關係上奄美群島ノ選挙  
ヲ欲セズ之ガ對策トシテ選挙用紙類ヲ北緯三十度以南ニ輸送スル

コトヲ禁ジ間接ニ選舉ヨリ除外セントセリ  
然レドモ用紙類ハ此指令前ニ輸送セラレアリキリ  
又二月初ノ聯合軍總司令部指令ニ依リ奄美群島ハ選舉ヨリ除外セラ  
ルルニ至レリ

第四、其ノ他

一、米國ハ何故ニ奄美群島ヲ外地トセシヤノ一考察

米國ガ奄美群島ヲ欲スルコト久シク嘗テハ「カトリック」教ヲ以テ  
奄美大島ヲ風靡セルコトアリ

今ヤ大島海峡等ノ價值昔日ニ比スベクモアラザルモ今尙<sup>情</sup>舊勢ニ依リ  
欲シ居ルガ如シ又米國ノ地圖ハ奄美群島ヲ北部琉球トナシアリ且米  
海軍擔任區ヲ外地ト見ナシ居ル爲ナラン

二、右ニ對スル吾人ノ態度ヲ如何ニスベキヤ

現在ニ於ケル諸般ノ處理ハ北緯三十度以南ヲ外地ト見ナサザルヲ得

二四

サルベシ然レドモ歸屬問題ニ關シテハ一日一刻ヲ忽ニセズ着々善處  
スルヲ極メテ必要ト認ム

附圖ハ北緯三十度ヲ界トスル米軍政ノ區域及系統ヲ示スモノナリ

歸屬ノ決定ニ就テハ之ニ捉ハレザルコト必要ナリ 之ニ就テハ米軍

モ度々聲明シアリ

三、奄美群島ニ關スル吾人ノ先入感ヲ除去スルヲ要ス

日本國民中ニハ「米國ガ奄美大島ヲ欲スルヤ久シ今ニ及ンデ手離ス

モノカ」ト考ヘアル者サキニシモアラザルガ如シ 是レ時勢ノ進退

特ニ飛行機ノ發達等ヲ知ラザルノミナラズ 米軍ハ正シキヲ知レバ

雖然トシテ之ヲ改ムルノ雅量ヲ有スルヲ知ラザルモノナリ

期クノ如キ消極的思想ヲ以テ戰後處理ニ任ゼンカ皇國ハ他力ヲ待タ

ズ自ラ眞ニ四等國ニ没落センノミ 身ヲ以テ國ニ殉ズルノ覺悟ヲ新

四、米軍ノ一舉一動ニ神經過敏ニナル勿レ

(小官ノ失敗セ~~ル~~一例)

0033

復員當初軍ヨリ左ノ指令ニ接ス

「喜界島ノ部隊ヲ速カニ復員セシムベシ、輸送船ハ當方ニテ準備シ、喜界島ニ到ラシムルヲ以テ速カニ乗船準備ヲ完了スベシ」

小官ハ是レ德之島飛行場ニ代フルニ喜界島飛行場ヲ以テスルナラント判断セリ

然ルニ其ノ後池田大島支廳長ヨリ

「米軍政監部「ジャックソン」少佐支廳ニ來リタルトキ食糧ノ困難及喜界島最モ甚ダシキ事情ヲ話セリ」ト聞キ喜界島急速復員ノ原因判明セリ

五 捕虜ヨリ感謝ノ手紙ヲ受ク

△德之島ニ捕虜三名（飛行機搭乗員）アリシガ其ノ一名（下士官）ハ收容後間モナク病死セシモ少佐少尉ノ二名ハ終戦後無事歸還セリ 出發ニ方リ少佐ハ小官ニ感謝ノ手紙ヲ殘シ少尉ハ我方通譯ニ親シミヲ表ハス書面ヲ渡セリ（小官宛禮狀ハ復員前焼却セシヲ遺

憾トス 要旨左ノ如シ

健康ヲ保持シテ無事歸還スルヲ得感謝ニ堪ヘズ「マツカード」少尉等疲勞シアリシ時竝ニ其褒典ヘラレタル二個ノ「ミルク」罐及今回ノ二個ノ密柑罐ハ物奇乏シキ中ヨリノ贈物ニテ感謝ニ堪ヘズ 貴官ニ面會セズ歸ルハ遺憾ナリ 今普信ヲ以テ感謝ノ意ヲ表ス

「コリンス」少佐、「マツカード」少尉 署名

通譯ニ對スルモノ左ノ如シ（原文ハ保管ヲ外務省ニ委任ス）

註、原田通譯ハ米軍ニ對シ「フランク」ト名乗リ居レリ



RA<sup>9</sup>-0621

0326

Hello Frank  
 We are leaving tomorrow so I will leave you my and Collins address.  
 Y.W. Mcadoo  
 [Redacted]  
 Denison, Texas.  
 Frank Y. Collins  
 [Redacted]  
 Odessa, Texas  
 Write me and I will answer your letter. Thanks for everything.  
 Respectfully  
 Ensign Y.W. Mcadoo

西捕虜、住所ヲ記シ文通ヲ乞ヒ萬事ニ感謝セルモノナリ  
 ！！

✓      ✓      ✓

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

2. 捕虜ヲ最初收容シタルトキ小官ハ

明治天皇御製

おのつから仇のころも離くまで

誠の道をよめや國民

ヲ奉誦シ此ノ

大御心ヲ奉体セヨト指示セリ

中溝取扱委員以下克ク此ノ方針ヲ實行セリ

健康ヲ保持云々ハ彼等ノ特質ニ應ジ体操學校卒業ノ「コリンズ」

少佐ニハ畑仕事ヲ銃爆撃ヲ恐ルル「マツカイド」少尉ニハ洞窟堀

リヲ擔任セシメ又起居、食物ニモ注意セシコトヲ意味スルナラン

3. 病死セルハ戦艦「インヂニア」號乗組上等兵曹「ピーター・サー

フアス」ナリ

「マツカイド」少尉ト同時ニ收容セリ

當初割合ニ元氣ナリシモ疲労回復遅キヲ以テ軍醫ヲシテ細密診察

二七

セシメタル處胃潰瘍ノ疑アリ 依テ直チニ其ノ治療ヲナセリ

食鹽水注射ニ場合ハ「マツカイド」少尉ヲ立會セシメ病篤キニ及

ビ「マツカイド」少尉ヲシテ遺言ヲ聞カシメ葬送ノ際亦「マツカ

イド」少尉ヲ參列セシム 米軍德之島ニ來リシ時其ノ墓ニ詣リ録

想激戦場避ケテ丁寧ニ葬リ墓碑ヲ立テ花サヘ供ヘアリタルニ感謝

セリ

六、終戦後米機德之島飛行場ヲ銃爆撃ス

終戦後ノ九月十八日十一時過米國新戦闘機「ブラツク・ウイドウ」

德之島飛行場ヲ銃爆撃セルコトアリ

當時第一回視察團「ガーフィールド」大佐以下德之島飛行場附近ニ在

リシヲ以テ同大佐ハ直チニ左ノ電報ヲ發セリ

「ガーフィールド」大佐ヨリノ電報

0036

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA<sup>9</sup>-0621

0327

RA<sup>9</sup>-0621

0328

To Commanding General 10th Army Okinawa  
Peter 38 over Tokuno strafed ammunition connecting points  
and airfields from 11.10 until 11.20 September 18  
One heavy explosion. Pilot made 8 or 10 runs.  
Unable to determine number of airplanes.  
Will radio more detail later. Request traffic drastic  
action against pilot. Suggest love five come here and  
remain. So we can have radiocontact with airplanes.  
Signed Garfield

== A

0037

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

0038

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

右 譯 文

P 38 ハ九月十八日一、一〇ヨリ一、二〇ノ間徳之島ニ於テ彈藥  
 集積連結地點及ビ飛行場ヲ銃撃セリ  
 「パイロット」ハ八乃至一〇回ノ旋回飛行ヲナセリ機數詳ナラズ詳  
 細ハ後刻更ニ通信ス  
 「パイロット」ニ對シテ運輸ノ徹底的行動ヲ要求ス 「ラヴ五」ノ  
 寫眞ニ來リ逗留スル様提案ス サスレバ吾等ハ飛行機ト無線連絡可  
 能ナリ

ガーフィールド大佐 署名

註、P 38ハ誤ナリ「ブラック・ウイドウ」ニシテ之モ双胞双發ノ戰  
 艦ナリ

我ガ方ハ「トラツク」一臺及燃彈數發ヲ爆發セシメタルノミエテ  
 人員其ノ他全ク被害ナカリキ  
 翌十九日米軍參謀少將ヲ長トシ法務官ヲモ加ヘタル現場調査團徳  
 二九

之島ニ來リ小官以下ニモ色々質問セリ 此ノ際予ハ奄美群島監獄  
 最高指揮官ノ資格ヲ以テ次ノ一言ヲ附加セリ  
 「米軍ガ直チニ貴官(少將)以下ヲ派遣シテ實情ヲ調査シ且速カ  
 ニ犯罪者ノ逮捕ニ努力スベキ旨言明セラレタル誠意ニ信賴シ予ハ  
 本件ニ關シ將來特別ノ要求ヲ為ササルコトヲ言明ス」  
 蓋シ小官ハ米軍ニ對スル要求ノ重點ヲ奄美群島ノ歸屬ニ置キ其ノ  
 處ノ處理ハ寛大ニセリ  
 其ノ後沖繩ヨリ連絡アル毎ニ彼ヨリ進ンデ犯人未逮捕ノ通知ヲ爲  
 シ居リシガ十二月ニ入り「犯人ハ着陸時墜落死セルコト明カトナ  
 レリ」ト口頭通知セリ

七 米第十軍ノ解散  
 「ロイストン」中佐ガ沖繩基地司令官代表トシテ十一月七日徳之島  
 ニ來リシコトハ「復員時ノ折衝」欄中ニ記述セリ  
 米第十軍ノ解散ハ兵器授受中ヨリ噂セラレタル處ナリ

RA<sup>9</sup>-0621

0329



小官上京後承知セシ處ニ依レバ「スチルウエル」大將ハ第十軍司令官在職中「予ハ斯カルコトニ興味ヲ有セズ」ト聲明セルコトアリト第十軍ノ解散ガ何ガ故ニ斯ク早ク行ハレタルヤ知ル由ナキモ米軍ガ奄美群島ノ領有ヲ放棄セルカ或ハ「スチルウエル」大將ガ奄美群島領有ニ不同意ナリシカノ結果ニ非ザルカ愚見ノ儘ヲ記シテ參考ニ資ス

兎モ角モ第十軍解散ニ伴ヒ奄美群島ニ對スル米軍ノ動キノ極メテ弱化セルハ事實ナリ

八 沖繩基地司令官

沖繩基地司令官「ローソン」少將ハ師團長ト稱シアリ然レドモ「ローソン」ハ小官等調印ノ爲沖繩ニ到リシトキハ大佐ニテ我等トノ直接交渉ニ任ジ居リタリ之ヲ以テ沖繩基地部隊ノ實力ヲ察知シ得ベシ

尚右基地部隊ハ陸軍ナルモ在比律賓海軍指揮官ノ指揮下ニ在リ

三〇

又從來空軍ヲ有セシモ空軍ハ近頃在布哇ノ空軍指揮官ニ直屬セリ

九 我カ部下將校五十三名沖繩ニ招致セラレアリ

招致ノ目的判然タラザルモ戦争犯罪嫌疑者ニ非ザルベキヲ信ズ

果シテ然ラバ何カ

奄美群島ヲアラユル角度ヨリ研究スル爲ニ非ザルカ

若シ然リトセバ奄美群島ノ真相益々明カトナリ吾人ノ熱望貫徹ヲ容

易ナラシムル結果トナラン

十 米軍ノ在奄美群島沖繩人ニ對スル取扱ノ一端

在奄美群島ノ沖繩人ヲ郷土ニ歸サントシテ十二月初古仁屋ニ集結セ

リ然ルニ間モナク之ヲ中止スルト共ニ暫ク從來ノ生業ニ復歸セシ

メラレ度シトノ指令アリタリ

其ノ理由ハ現在沖繩ニ殘留シアル者ノ戰災回復容易ナラザルヲ以テ

先ツ殘留者ノ生活ヲ安定セシメンガ爲ナリト説明アリタリ

0039

第五、結 論

國境ヲ適正ナラシムルハ世界平和ノ爲絕對必要ナル條件ナリ  
奄美群島ヲ日本本土タラシムルハ勿論之ヲ信託統治ヨリ除外スルコト  
亦平和ノ礎ヲ固クスル爲ニ必要ナリ  
殊ニ大島海峡ノ價值昔日ニ比スベクモ非ザル今日米國ハ宜シク之ヲ九  
州ノ一部トシテ純然タル内地ト認メ米國ノ正義ヲ具現スベキナリ  
是レ單ニ皇國領土保全ノ爲ノミニ非ズ實ニ平和ノ礎ヲ固クシ米國ヲシ  
テ正義ヲ世界ニ布カシムルモノニシテ米國ニ對シテモ眞ノ親切ヲ盡ス  
所以ナリト確信ス  
機會ハ逸シ易シ宜シク官民一致速カニ此ノ熱望ヲ米國官民ニ訴ヘ米國  
輿論ノ支持ヲ得尙聯合各國ノ正シキ理解ヲモ得奄美群島ノ確保セラレ  
ムコトヲ祈念シテ已マズ  
特ニ奄美群島ハ戰爭中軍官民協力一致シテ防衛ニ任ジ米軍ニ一歩ヲ踏  
マシメズ尙捕虜ノ取扱ハ適正ニシテ捕虜歸還ノ際感謝ノ手紙ヲ殘セシ  
コトヲモ充分考慮セラレ度

0040

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA<sup>9</sup>-0621

0331

附 録

當 時 者 ノ 參 考 ノ 爲 此 足 ヲ 添 フ

附 録 第 一、奄 美 群 島 ノ 將 來 性  
一、概 説

軍 事 的 事 項 ハ 論 セズ 其 ノ 他 一 般 ニ 就 テ 概 説 ス レバ 砂 糖 ノ 産 地 ト シ  
テ 禮 子 島 ト 共 ニ 臺 灣 ノ 後 ヲ 繼 グ 立 場 ニ 在 リ 又 食 糧 増 産 及 住 民 増 加 ノ  
余 力 ヲ 有 ス

二、經 濟 事 項

- 1. 砂 糖 ハ 現 在 年 産 約 九 千 挺 ナ ル モ 對 策 ヲ 講 ズ レバ 更 ニ 増 産 容 易 ナ リ  
然 レド モ 甘 蔗 ハ 植 付 ケ ヲ リ 製 糖 迄 約 一 年 半 ヲ 要 ス
- 2. 米 ハ 二 毛 作 ニ シ テ 日 下 年 産 八 萬 石 ヲ 目 標 ト シ ア ル モ 肥 料 ノ 豊 富 ナ  
ル 使 用 等 ニ 依 リ 更 ニ 増 産 シ 得 ベシ
- 3. 甘 藷 ハ 現 在 年 十 萬 貫 ヲ 目 標 ト ナ シ ア リ

三二

万 法 宜 シ キ ラ 得 レバ 更 ニ 増 産 容 易 ナ ル モ 甘 蔗 ニ 重 點 ヲ 置 ク ト キ ハ  
減 少 ス ル ナ ラシ

4. 蘇 鐵 ハ 實 及 幹 ヲ リ 澱 粉 ヲ 製 シ 主 食 ノ 代 用 タ ラ シ メ 又 味噌、燒 酎 等  
ノ 原 料 ト ナ シ ア リ

- 5. 牛 ハ 沖 水 良 部 島 ニ 多 産 ス
- 6. 馬 ハ 喜 界 島 ニ 良 馬 ヲ 多 産 ス
- 7. 沖 永 良 部 島 ハ 米 向 ケ 百 合 ノ 根 ノ 産 地 ナ リ
- 8. 大 島 紬 ノ 産 地 ナ リ

三、住 民 増 加 力

現 在 人 口 約 十 七 萬 ニ シ テ 復 員 軍 人 歸 郷 後 約 十 九 萬 ト ナ ル  
過 去 ノ 記 録 二 十 四 萬 ナ ル ヲ 以 テ 將 來 ノ 増 加 力 ハ 特 別 ノ 處 置 ヲ 講 ズ ル  
コ ト ナ キ モ 約 五 萬 ハ 容 易 ニ シ テ 整 理 ス レバ 十 萬 ハ 困 難 ナ ラズ ト 認 ム

0041

外 交 史 料 館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国 立 公 文 書 館 ア ジ ア 歴 史 資 料 セ ン タ ー

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0621

0332

附錄第二、現地ノ米軍ハ奄美群島ヲ如何ニ認識シテアリヤ

一、現地米軍ハ奄美群島ガ沖繩縣ト全ク別ニシテ鹿兒島縣ナリ九州ナリ内地ナルコトヲ研究理解シアリ

彼等ハ米國製ノ地圖ニ依リ奄美群島ハ琉球ノ一部（北部琉球）ナリト信ジアリシモ現地ニ來レル者ハ自ラモ深ク研究シ正シキ理解ヲ有スルニ至レリ

二、現地米軍ノ理解セリト認ムル具体的事項

- 一、縣會議員六名ヲ出シ鹿兒島縣ノ郡トシテハ最多數ノ議員ヲ出シアリ
- 二、總テノ指令ハ鹿兒島縣知事ヨリ發セラレアリ
- 三、民族的ニ相違シアリ
- 奄美群島ノ幼兒ノ臀部ニハ黒キ斑點ヲ有スルモ沖繩ニハ此ノ斑點ヲ有スル者少シ
- 沖繩トノ距離近キモ兩地人間ノ結婚ハ容易ニ行ハレズ

三三

5、奄美群島ノ墓ハ日本本土同様ナルモ、沖繩ノモノハ全ク異レル様ナリ

6、言語モ奄美群島ハ大和言葉ニシテ沖繩ハ琉球語ナルコトヲ直チニ理解セシナラン

7、奄美群島ハ何時頃ヨリ日本領土ナリシヤト質問アリシニ對シ「有ル以前ナリ、天照皇大神ノ御子「アマミツコ」統治セラレシニ依リ奄美群島ノ名生ジタリ」トノ神話アル旨説明セルコトアリ

8、種子島北端ノ西方ニ點在スル竹ノ島、硫黃島、黒島等ノ人口等ガ照毛支廳ニテハ判明セザリシガ比律賓ヲ經由シテ大島支廳ニ照會シ直チニ判明セルコトニ依リ大島郡ハ種子島北端ト同緯度マデ延長シアルコトヲ承知セリ

奄美群島ノ沖繩ニ比シテ九州ノ南端ヨリ且強列ニ受テ  
 タリシコトニ依リ九州人ノ血縁關係濃厚ニシテ九州人ニ依リ  
 同島先住氏ノ衣服ヲ意味スルモノナリ又九州ノ鹿兒島ノ華人語ハ南方ニシテ同  
 系統ニテハ「アミツコ」トシテ「奄美」トシテ「琉球」トシテ  
 已列スル諸島の神話ナリ、天照皇大神ノ御子「アマミツコ」トシテ「琉球」トシテ  
 無知ニ甘ク判断ナリ、奄美大島ヲ得ニシテ琉球ニ關スル吾人ノ先入感除キテ防害  
 スル結果ヲ求メスモノナリ。



附錄第三、米軍ハ奄美群島ノ價值ヲ如何ニ判斷シアリヤ  
 米軍ヨリ聽取セルコトナキモ客觀的ニ判斷セル所左ノ如シ  
 一、米軍ハ大島海峡及德之島飛行場ニ價值ヲ認メアルナラン  
 二、大島海峡ニ就テ米海軍ハ從來大島海峡ヲ絕對必要トセシ觀念今尙殘リ  
 アルガ如シ

然レドモ飛行機ノ發達セル今日艦隊泊地トシテノ價值減少セルハ察  
 スルニ難カラズ  
 又沖繩作戰ニ於テ米艦隊ノ泊地ガ中城灣、令武灣、名護灣、嘉手納  
 沖、糸滿沖、慶良間列島等ニ及ビシヲ思フ時大島海峡ノ面積ハ余リ  
 ニ小ナリ

尙昭和二十年十月八日第二回ノ颱風時偶々碇泊中ナリシ米驅逐艦及  
 「LST」衝突損傷セシコトアリ 颱風時ノ避難港トシテモ從來ノ  
 信賴ヲ減少セシナラン  
 三、德之島飛行場ニ就テ

三四

德之島飛行場ハ大島海峡ニ最モ近キ飛行場トシテ米軍時々使用シア  
 リ 良好 大ナリ  
 素質ハ良シナラズ面積亦サザルモ他ノ地點ニ二、三ノ飛行場ヲ増  
 設スルヲ得ベク中繼飛行場、不時着場トシテハ相當ノ價值ヲ有スベシ  
 喜界島ニモ飛行場アルモ全般位置適當ナラズ目下殆ンド使用セラレ  
 ズ

四、颱風ニ就テ  
 前述艦船衝突ノ外米軍視察團「ガトフィールド」大佐以下昭和三十年  
 九月十六、七日ノ第一回颱風ヲ德之島ニテ體驗シ相當ノ死傷者及ビ  
 多数ノ破壊家屋等ヲ出セルコトヲ承知シアリ 余リ好マシキ土地ニ  
 アラズト感シタルガ如シ

五、其他  
 飯地蛇、癩病及ビ「フィラリヤ」病多キコト  
 赤痢、「チブス」等年中散發シアルコト等ヲモ承知シアリ



高田陸軍少將ノ奄美群島ニ關スル講話要旨

一、奄美群島ハ地理的ニハ沖縄、比島ヨリモ近距離ニアルガ如キ  
モ現在ハ沖縄米軍ノ管下ニアル爲政治的、通信的ニハ却ツテ  
前兩者ヨリモ遠距離ニアリ

二、奄美大島ハ兵ノ歸屬問題ニ關聯鹿兒島縣ニシテ沖縄縣ニアラ  
ズ、内地ナリトノ認識ヲ新ニセラレ度

三、先般奄美大島ニ選挙實施ヲ許可セラレタル處一月九日不許可  
トナリタリ

右事情ニ一喜一憂スルコトナク、最後迄手迄努力ヲ爲シ奄美  
大島ヲ日本領土ニスルヲ要ス

外務省

大島

講話

外務省

省

0044

四、奄美大島武装解除ノ経緯（詳細省略）

米軍ハ奄美大島ヲ北部琉球トシテ扱フ旨強硬ニ主張セルモ再

三交渉遂ニ北部琉球トセス奄美大島トシテ武装解除、兵器接

収ヲ實施セリ

沖縄方面米軍ハ奄美大島ハ北部琉球ニアラザルコトヲ良ク認

識シアリ

五、右交渉ニ當リ

米軍ハ根氣良ク任シキコトヲ主張セバ遂ニハ了解、直ニ卒直

ニ考ヲ改ムル美點アルヲ深ク感ジタリ

北部琉球トアル公文書ハ總テ突返セル處何レモ大島郡ト畫

メタリ

外務省

0045

六、米軍ハ始北緯三十度以南ニ於ケル一〇〇トン以下ノ船舶ノ自由航行ヲ禁止セルモ最近ハ鹿兒島ト沖繩縣トノ界迄ニ許可スル如クナレリ

七、奄美大島ハ言語風俗慣習共ニ沖繩トハ全ク異ルモ奄美大島ハ日本領土タル一證ナリ

八、奄美大島市長以下民間ハ盡ク鹿兒島大島群ナルコトヲ認識シ之ヲ日本領土タフシム可ク努力中ナリ

九、奄美大島ノ價値

(イ) 砂糖ノ製産地ナリ台灣ナキ後重要ナル砂糖ノ供給地ナリ

(ロ) 米ハ二毛作可能ナリ更ニ現地ノ狀況ニ應ジ適切ニ指導セバ

外務省

0047

現在以上ニ増産可能ナリ

(ハ) サツマ芋ハ年ニ三回トレ「ソテツ」ノ澱粉アリ

(ニ) 喜界島ハ馬ノ産地、沖ノ永良部島ハ牛ノ産地ナリ

(ホ) 奄美大島ハ水力發電開發可能ナリ

十、米國ハ從來奄美大島ヲ艦隊泊地トシテ至大ノ關心ヲ持チ居リタルモ航空機ノ發達セル今日艦隊泊地トシテハ無價値ニシテ颱風頻發スルヲ以テ海軍基地トシテノ價値少ナシ

十一、奄美大島ノ住民ハ民族的ニ皇國領土タルヲ絶對的ニ願求シアリ、歸屬問題ニ關シ右ヲ念頭ニ入レ處置セラレ度

(一終)

外務省

0046

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA<sup>9</sup>-0621

0336



連絡局  
地方課長

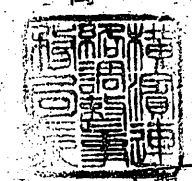
運送機密本第二七號

昭和二十五年一月二十六日

除  
解  
第II回公開

外務大臣  
吉田 茂 殿

橋濱連絡調整事務局  
局長 鈴木 九 萬



済帳記

0048

新  
A16.1.0.1  
政務省  
一月十八日

一月十八日自分に於て同道重鹿兒島縣知事が第八軍司令官を往訪したが其の際同知事より自分に對し千島の一部を日本側に歸屬せしめ様とする運動が北海道方面に起りつつあるのにも鑑み元鹿兒島縣に所屬していた北緯三十度線以南の奄美大島が經濟的其他から見て同縣と不可分の關係にもあるし、何とか鹿兒島縣に歸屬せしめたいという強い要望があるが、H.Q.の民事局長シェバード少將に表敬の機會に此

0049

の點にふれてみたいとの話があつたので一月二十四日同少將との面會を斡旋すると共に同少將に對して右の問題にふれる事あるべき旨を内報して、おいた處民事局と第八軍司令部との連絡に當つては、ワッツ大佐は三、三年前には大分右要望につき話が出て居つたが最近は余りきかなかつた同少將にも從來の經過をよく話しておくとの話であつた。右二十四日の會見についてワッツ大佐からの連絡によれば結局話は出たが調べて見ると鹿兒島縣と問題の島との間には現在事實幾分のトレイドが行われて居る様だが歸屬の問題はどの途結局平和條約の際迄またねばならぬと思ふとの事であつたが歸屬問題については同情的である様な印象を得た。何等御参考迄

本信寫送付先 各地方連絡調整事務局長（幸便に依る）